

経済学部 of 教育目的・3つのポリシー

(理念・目的)

経済学部は、外国語の能力、ならびに、豊かな歴史観、自然観、および、倫理観を中核とする教養に基礎付けられた経済学、経営学・情報、環境学の専門知識を習得した、国際的視野を有する優れた社会人、地域社会や国際社会に貢献できる実践的な人材を育成することを教育目的とする。

学位授与方針 (DP)

(学位授与要件、学位の種類)

経済学部は、修業年限を満たし、所定の単位を修得し、卒業時点で以下の能力を身に付けた者に「学士(経済学)」、もしくは「学士(経営学)」の学位を授与する。

(学位の裏付けとなる「能力」)

1. 豊かな歴史観、自然観、および、倫理観を中核とする教養に基づき、多文化・異文化を理解・尊重し、人類社会と自然の調和を求める倫理観を有し、現実社会に発生する多種多様な諸問題を広く経済学の視点から分析し、経済学、経営学・情報または環境学の専門知識を修得して問題解決を図ることを通じて自己を発展させ、社会に貢献する能力を身に付けている。
2. 英語運用能力については、「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能に関して、国内外で社会活動を進める上で不可欠となる問題を理解し、伝えたい内容を表現するために必要となる学術的な能力を身に付けている。
3. 演習(ゼミナール)については、経済、経営、会計、情報、環境に関して各演習の設定するテーマの専門的な知識を修得し、個人が独自に設定した問題の内容を正しく理解し、各問題の効率的な解決策をチームワークにより発見し、情報リテラシーを活用して導き出した結論をレポートとしてまとめ、得られた成果を理解しやすい形での確に発表できる能力を身に付けている。

教育課程の編成・実施方針 (CP)

(カリキュラム)

経済学部では、学位授与方針に掲げる能力を養成するために、学部基礎科目、学科基礎科目、学科専門科目、教職関連科目(教職課程・免許教科は経済学科、経営学科、国際環境経済学科の当該欄参照)、演習科目、全学共通授業科目の各群を配置する。

(外国語教育)

英語については、全学共通授業科目・英語部門において、一般学術目的の英語(EGAP)としての英語教育を第1学年から第3学年(第1学期から第6学期)まで必修科目として配置する。

EGAPでは、専攻分野にかかわらず必要な学術的言語技能を、英語運用能力の「読む」「書く」「話す」「聞く」の4つの技能と合わせて養成する。全学共通授業科目の英語教育については、入学時に受験す

る TOEIC®Listening & Reading IP テストのスコアによる習熟度別クラス編成を行うことによって、学生のレベルに合った教育効果の高い授業を提供する。第 1 学年第 2 学期末、第 2 学年第 4 学期末にも同様に全員に TOEIC®L&R を受験させ、第 2 学年（第 3 学期から第 4 学期）、第 3 学年（第 5 学期から第 6 学期）の英語クラスの編成を行うことで、学生自身が入学後の学修の成果を客観的に把握するとともに、スコアアップという目標設定によって学修のモチベーションを高く維持できるようにする。

全学共通授業科目の英語教育が EGAP であるのに対して、学科専門科目群の専門外国語部門では、特定学術目的の英語（ESAP）としての英語教育を実施する。第 3 学年（第 5 学期から第 6 学期）には、学科専門科目群の専門外国語部門に、各コースに沿った外国語文献講読により専門領域を学ぶ専門英語、専門中国語を配置する。

（教養教育）

建学の理念に基づき、学生の人間形成にとって必須と考える共通の教養を学部の専門性を越えて修得できるように、学部・学科を越えて編成される全学共通カリキュラム（全カリ）の枠組みで全学共通科目を配置し、豊かな歴史観、自然観および倫理観を中核とする教養を養成する。特に全学総合講座部門では、主に第 1 学年（第 1 学期から第 2 学期）を対象として全学総合講座の 2 科目 4 単位を必修とする。

（専門教育）

学部基礎科目群は、経済学部の経済学科・経営学科・国際環境経済学科の 3 学科に共通して、必修科目として配置する科目群である。学部基礎科目群には所属学科に関わらず、経済学部生として共通に必要な基礎的学力を身に付けられる導入科目・基礎科目として、第 1 学年第 1 学期のクラスセミナーをはじめ、経済学（ミクロ）、経済学（マクロ）、経営学、経済経営数学入門、統計学入門を第 1 学年（第 1 学期から第 2 学期）の必修科目として配置し、第 2 学年第 3 学期以降の演習を中心とした多様な専門領域の中から自分の専門分野を選びやすくする。

学科基礎科目群は、経済学部の 3 学科が各学科の専門領域の基礎的な科目を提供する科目群であり、学科専門科目にスムーズに進んでいくための橋渡しの役割を担っている。そのため、学科基礎科目群には、各学科の専門領域に進むために必要な基礎科目を必修科目として配置し、それ以外の科目は選択必修として配置する。なお、学生が所属学科以外の学科の専門領域の専門科目を履修しようとする場合には、当該学科の科目群の必修科目を履修することが望まれる。

学科専門科目群は、各学科の教育研究上の理念と目的に則った専門科目を配置する。

演習科目群は、学部基礎科目、学科基礎科目によって専門的基礎学力を育成し、全学共通授業科目、学科専門科目によって発見した問題や課題について、研究テーマを設定し、学生が協働して問題解決を目指して議論し、発信する場である。特に第 4 学年（第 7 学期から第 8 学期）の演習Ⅲにおいては、学究の成果を卒業研究（卒業論文）にまとめることで、大学生活の学びを完結できるようにする。卒業研究（卒業論文）を学部全員に必修とすることで、経済学部の教育研究の質を保証するカリキュラムの中心をなすものとして、卒業論文ポスターセッションなどで披露する仕組みも導入する。

また、総合講座・特殊講義群を 3 学科共通で配置し、社会で活躍している著名人等を招聘する総合講

座や従来の大学教育課程において提供できない新しい知見を得るための科目として特殊講義を置く。

(教職課程)

経済学科、経営学科、国際環境経済学科について、それぞれの当該欄参照。

入学者受け入れ方針 (AP)

(求める人物像)

経済学部では、獨協大学および本学部の教育目的に共感し、次の学力・適性をもつ人物を求める。

- ・高等学校段階の基礎的な知識および技能、思考力、判断力、表現力等の能力ならびに主体的に学習に取り組む態度。
- ・特に高等学校段階の外国語（英語）の学力およびその学力を大学の学修で伸ばし将来国内外で積極的に活用する意欲。
- ・大学における専門分野である経済学、経営学・会計学・情報学、環境学を学修するのに十分な適性。
- ・将来、国際的視野に立つ教養人として社会的に活躍する意欲と倫理観。
- ・経済学、経営学・会計学・情報学、環境学の知識・技能・歴史等を学修し、社会発展に貢献したいという意欲。

(出願要件)

高等学校もしくは中等教育学校卒業（当該年度末卒業見込みを含む）またはそれに相当する資格（詳細は入試要項および入試概要参照）と学力を要する。科目別では、全ての試験方式で外国語（英語）の学力を求める。それに加えて国語（または小論文）、地理歴史・公民、数学、理科のいずれか一つもしくは複数の科目の学力を入試種別に応じて求める。

(入学者選抜方法)

外国語教育重視の観点から、外国語科目（英語）を重視した入試を行う。また、多彩な学生の受け入れを図るべく、一般入試をはじめとする様々な入試制度（詳細は入試要項および入試概要参照）を設ける。